

尾山遺跡発掘調査現地説明会 ―水無瀬離宮の時代にあった池跡の調査―

令和2年10月3日（土）

島本町は、古来、水無瀬川をはじめとする清流が流れる、風光明媚な土地として知られている。全国名水百選に選ばれた「離宮の水」に代表されるように、北摂山地（山側）と淀川の間にある平野部を流れる川には、現在も清らかな水が流れている。

島本町桜井二丁目に位置する尾山遺跡では、土地区画整理事業に伴い、令和2年6月1日から、島本町教育委員会と（公益財団法人）大阪府文化財センターによる合同調査を実施している。調査前、遺跡周辺は、室町時代から水田・畑として土地利用されており、田園風景が広がっていた。発掘調査では、縄文時代から中世にいたるまで当地で生活していた人々のさまざまな生活の痕跡がみついているが、今回あらたに、後鳥羽上皇が造営した水無瀬離宮、あるいは、後鳥羽上皇に近い皇族・貴族が関係すると思われる池（167池）を発見した。



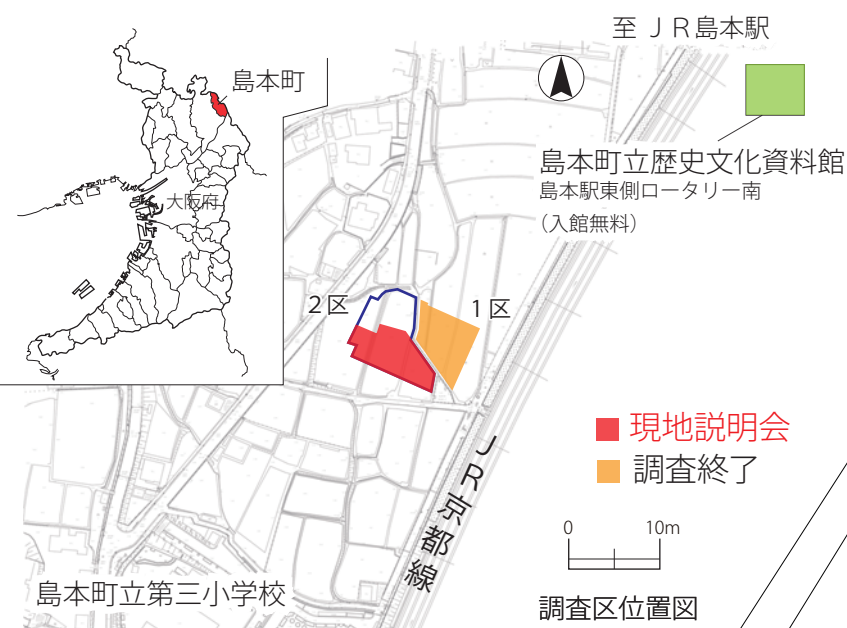
介地業（整地）を行った場所で硬化面（硬くなった地面）が確認された。そこから、完全な形の土師器（はじき）が、並べられたような状態で出土している。祭祀や饗応（宴会）で使用したものだろうか。13世紀代を中心に14世紀前半までの土器が多量に出土した。



⇒土坑
（桶内に167池で使用する礫と同質の石材を用いている）



167池



藤原定家の日記『明月記』には、正治元年（1199）年頃から後鳥羽上皇がたびたび水無瀬離宮を訪れていることが記されている。現在、水無瀬神宮のある場所に水無瀬離宮があったが、低地に位置するため、建保四年（1216）の洪水によって倒壊してしまう。その翌年には、新しい御所が山上（高台）に築かれたことが文献に記されており、桜井三丁目に所在する西浦門前遺跡では新しい御所の池がみついている。西浦門前遺跡の池は、大きさこそ異なるが、尾山遺跡の167池と類似したデザイン・石材・工法によって造られており、両者が深く関係していることが想定できる。ここからも、尾山遺跡の167池の造営には、後鳥羽上皇に近い皇族・貴族が関わっていた可能性が高いと考えられる。

発行 島本町教育委員会
〒618-8570 大阪府三島郡島本町桜井二丁目1番1号

⇒2基の井戸がみつかった。井筒（いづつ）には、樽を七段に重ねたものと石組みのものがある。石組みの井戸には、167池のような精緻さ、色彩の統一は無く、生活用水を主目的とした、実用に即したものであったことがわかる。167池を所有した人物の住居を知る手がかりは、今回の調査区ではみつからないが、井戸の存在は周辺に人が住んでいた証拠となりうるものだろう。



西浦門前遺跡の池（島本町立歴史文化資料館に移設）

